

平成 21 年 4 月 1 日ダイヤ改正 概要

お買い物ふれバの廃止

乗客数が伸びなかったことと、トリップの半数が当別駅南口からラルズであり、市街地循環線や金沢線で代用できることから廃止とする。空いた時間は市街地循環線に振り替える。

市街地循環線の小中学校用ダイヤの創設

朝と午後に市街地循環線を増便して、小中学校の登下校に利用できるよう配慮する。小中学校向けのモビリティマネジメントを活用して、授業を通してのバスの利用促進を図る。この際、朝の時間帯はダイヤが過密となっていることから、朝 2 時間、夕方 2 時間だけ 5 台での運行を計画する。5 台に増えることで運行経費が増額となるが、連携計画の利用促進事業として、補助が受けられる間の実証運行としたい。

これにより、市街地循環線は昇順降順各 4 便から昇順 8 便、降順 7 便へ増便する。

市街地循環線の単一料金による乗り越しの実施（別紙参照）

現在は昇順 降順 昇順 降順 と交互に路線を運行していたため、市街地循環線を昇順・降順で料金をリセットしていた。市街地循環線を乗り継ぐにも、昇順のルートで降順が逆送するため、乗り継ぎのニーズが発生しなかった。

朝と午後に市街地循環線を増便して、同時刻に 2 台で市街地循環線を行うことで、昇順で 1 台、降順で 1 台使用することができる。これより昇順または降順を連続で運行することで、1 便目の昇順から 2 便目の昇順に乗り継ぐニーズが発生する可能性がある。

今までは

(昇順)南口 栄町方面 南口 春日方面 南口 (区切る) (降順)南口 春日方面・・・

春日方面から栄町方面に移動する手段は降順のみ。

昇順(降順)を連続で運行することで、

(昇順)南口 栄町方面 南口 春日方面 南口 (昇順)南口 栄町方面 南口

春日方面から栄町方面に移動する手段は昇順の乗り継ぎでも発生する。短時間で便数を稼ぐことが必要な朝や下校時間などでは効果が高いと思われる。

今回のダイヤ改正では、昇順は 1 便 2 便と 5 便 6 便 7 便、降順は 1 便 2 便と 5 便 6 便の間で乗り継ぎに係る料金を徴収しないこととする。

市街地循環線における乗継システムの実験としたい。

市街地循環線の路線変更、バス停の移動

市街地循環線の白樺緑地と当別駅南口の間を、「当別小学校」を経由する。今までは金沢線のみが当別小学校を経由しており、平成 18 年に道路が切り替えられ、市街地循環線でも当別小学校前を経由することができることから、路線を変更する。

また、ホテル ANDO 前のバス停を 100 先の共生型地域オープンサロンへ移動し、名称も「オープンサロン」に変更する。

市街地循環線の時間の変更

現在の市街地循環線栄町方面の所要時間は30分としているが、早発回避のための時間調整が頻発していることから、25分間のダイヤに組みなおす。

金沢線の時間の変更

現在の金沢線の所要時間は10分としているが、遅発が多いことから、12分間のダイヤに組みなおす。

金沢線の本数の組みなおし

金沢線は大学行が12便、当別駅行が14便運行している。現在午後の便にある金沢線・あいの里線間の乗換を無くし、大学の授業開始・終了時間に合うように時間を調整しつつ、人数の少ない便を間引き、大学行・当別駅行を各13便ずつになるよう変更した。

みどり野線から青山線への移行と運行時間の変更

お買い物ふれバを取りやめたことで、ダイヤに余裕ができたため、15時台のみどり野線を青山線へ切り替える。これに伴い、17時台、19時台の青山線を30分ずつJRの接続をずらすことで、約2時間間隔で青山線が運行できるようになる。

土日ダイヤは変更無し

100円回数券の作成

要望のあった小学生向けの回数券を作成する。24枚綴り2,000円で販売する。使用は運賃100円で乗車できる小学生・障害者・介護人を対象とし、100円券2枚で大人の使用はできないこととする。主たるターゲットは小学生。現金を子どもに持たせずにバスを利用できるよう配慮する。

回数券の販売箇所は従前通り、下段モータースとバス車内のみとする。

小中学生向け夏休み冬休み限定定期の作成

バスの利用が落ち込む長期休暇期間に小学生1,000円、中学生2,000円の限定定期を作成。小中学生の利用促進を図る。市街地循環線のダイヤ改正と、小中学生向けモビリティマネジメントと併せることによる相乗効果を狙う。